

## リトアニア語のあらまし

リトアニア語 (*Lietuvių kalba*) は、インド・ヨーロッパ語族のバルト諸語派に属する言語であり、言語学的観点から見てきわめて古態的なことで知られる。いわゆるバルト三国の一つ、リトアニア共和国の公用語であり、EU の公用語ともなっている。現在、人口約 300 万人のうち 8 割強を占めるリトアニア人によって母語として話されている他、最大のマイノリティであるポーランド人をはじめ、ロシア人、ベラルーシ人といった他民族の多くも現在ではリトアニア語の運用能力をもっている。また、リトアニア国外にも、ベラルーシ、ポーランド、アメリカ合衆国、カナダ、イギリス、アイルランド、スペイン、オーストラリア、ドイツ、ラトヴィアなどに話者がいる。

リトアニアの名が記された最も古い文献は 1009 年に遡る。その後、13 世紀に統一されたリトアニアは、中世後期の 14~15 世紀にかけて東ヨーロッパ最大の国家として繁栄した。だが、当時の公文書には古ベラルーシ語が使用され、リトアニア語で書かれた最初の書物であるマージュヴィダス (*Mažvydas*) の『教理問答書』 (*Catechismusa Prasty Szadei*, 1547) を始め、初期の古文献が現れたのは 16~17 世紀と時代を下る。周辺大国のせめぎ合う複雑な国際情勢の中で、18 世紀半ば、東プロイセン領のいわゆる小リトアニアにおいて、ルター派の牧師であったドネライティス (*Donelaitis*) によるリトアニア古典文学の最高峰、叙事詩『四季』 (*Metai*) が誕生した。とりわけロシア帝国の支配下でラテン文字の使用が禁じられた時期 (1865–1904)、リトアニア語は消滅を確実にされる状態にあったが、幸いなことに、19 世紀末から高まりを見せた民族運動とともに復活した。言語学者ヤブロンスキス (*Jablonskis*) は、『リトアニア語文法』 (*Lietuviškos kalbos gramatika*, 1901) を地下出版し、文語としての標準リトアニア語の形成に大きく寄与して「リトアニア語の父」と称される。

リトアニア語が初めてリトアニアの公用語となったのは、第一次世界大戦後の独立共和国時代 (1918–1940) のことであった。1940 年に国がソ連に併合され公用語がロシア語となると、リトアニア語は民族語としての地位に甘んじたが、その状況も、1990 年にリトアニアがソ連からの離脱を宣言し、独立を回復するに及んで解消した。リトアニア語は再び国の公用語となり、現在では非リトアニア系住民もリトアニア語を解するようになっている。

方言が多様であることもリトアニア語の大きな特徴をなしている。バルト海寄りの低地リトアニア地方 (ジェマイティヤ *Žemaitija*) で話される低地方言と、内陸側の高地リトアニア地方 (アウクシュタイティヤ *Aukštaitija*) で話される高地方言の二つに大きく分けられるが、両者の区分はすでに 10 世紀頃には明確であったと考えられている。なお、19 世紀末から 20 世紀初頭に確立された標準語の基礎となったのは、当時は東プロイセン領のいわゆる小リトアニアに連なる地域で話されていた高地西部方言である。

以下は、リトアニア語文法の概略である。

### ①文字・発音

**アルファベット** — リトアニア語のアルファベットは、以下のように、23 個のラテン文字と補助記号を添えた 9 個の特殊文字 (*ą, ę, j, ū, é, ū, č, š, ž*)、合わせて 32 文字からなる。

*a, ą, b, c, č, d, e, ę, é, f, g, h, i, j, y, j, k, l, m, n, o, p, r, s, š, t, u, ū, v, z, ž*  
文字は、基本的に 1 字 1 音を表し、綴り字の規則は比較的単純である。

**母音文字** — リトアニア語の母音文字には、短母音文字 *a* [a], *e* [ɛ], *i* [i], *u* [u] と長母音文字 *é* [e:], *y* [i:], *ū* [u:], *o* [o:], *ą* [a:], *ę* [ɛ:], *į* [i:], *ų* [u:] の区別がある。文字 *ą, ę, j, ū* は古い鼻母音に由来するが長母音に変化しており、現代語では、*y* と *j*, 及び、*ū* と *ų* は、それぞれ同じ発音になっている (例. *įsakýti* 「命令する」、*júsu* 「あなた (たち) の」)。また、短母音文字 *a* と *e* のみは、上昇アクセントをとまなう際には長母音となる (例. *nāmas* 「家」、*mēnas* 「芸術」)。一方、長母音文字 *o* は、外来語や国際用語においては、しばしば短母音として発音される (例. *politika* 「政治」)。二重母音には、通常二重母音 6 個 (*ai, au, ei, ie, uo, ui*) に加えて、さらに、母音 *a, e, i, u* と子音 *n, m, r, l* を組み合わせた 16 個の混合二重母音がある。

**子音文字** — リトアニア語の子音文字には3つの組み合わせ文字 **ch [x]**, **dz [dz]**, **dž [dʒ]** を含めて23文字がある。特殊文字の **č [tʃ]**, **š [ʃ]**, **ž [ʒ]** や、英語とは異なる **c [ts]**, **j [j]**, **r [r]** (巻き舌のふるえ音) の発音には注意が必要である(例. **cùkrus** 「砂糖」, **jūra** 「海」, **rašyti** 「書く」)。文字 **ch**, **f**, **h** は、外来語にのみ用いられる(例. **chèmija** 「化学」, **fàbrikas** 「工場」)。また、子音には、無声子音と有声子音の区別があり、語末の有声子音は無声子音に変わる(例. **daũg** 「多く、沢山」)。また、有声+無声、無声+有声の子音連続では、前の子音が後の子音に同化して、それぞれ、無声子音、有声子音になる(例. **dirbti** 「働く」, **kasdièn** 「毎日」)。

**軟子音と硬子音** — 母音文字は、前舌母音を表す **i**, **j**, **y**, **e**, **ę**, **è** と、後舌母音を表す **a**, **ą**, **o**, **u**, **ų**, **ū** に分けられる。前舌母音に先行するすべての子音は、軟音化(口蓋化)されて、軟子音(口蓋化音)となる(例. **širdis** 「心臓」, **mėdis** 「木」)。この現象は日本語のそれと類似しており、日本人にはとくに発音上の困難は感じられない。ただし、注意を要するのは、リトアニア語では、文字 **i** が、母音として発音される以外に、先行する子音が軟子音であることを示す記号としての役割をもつことである。後舌母音に先行する子音はふつう硬子音だが、この文字 **i** を添えた **ia**, **io**, **iu** などの前では軟子音として発音される(例. **kėlias** 「道」, **keliõnė** 「旅」)。

**アクセント** — リトアニア語のアクセントは、語頭、語中、語末のどの位置の音節にも現れる自由アクセントであり、名詞類や動詞類の変化語において、語の屈折変化にともないアクセントの位置が複雑に変わる。短母音に特有の短アクセント (˘), 長母音または二重母音に特有の下降アクセント (˙) 及び上昇アクセント (˜) の3種類がある(例. **dangùs** 「空」, **úostas** 「港」, **studeñtas** 「学生」)。これら3つのアクセント記号は一般の書物では用いられないが、辞書や教科書類では、慣例的に、アクセント記号に加えて、名詞類の語には(1)~(4)の数字によってアクセントのタイプが示される。

## ②形態的・統語的特徴

**名詞** — リトアニア語は屈折型の言語であり、とりわけ名詞類は、豊富で多様な形態変化を特徴とする。名詞には、男性名詞と女性名詞があり、2つの数(単数と複数)、及び、7つの格(主格、属格、与格、対格、具格、位格、呼格)の区別がある。中性名詞、双数の区別は現在では失われたものの、なお非常に古風な名詞の屈折組織を保っている。

表 1. 名詞の変化例

	第1変化			第2変化	
	výras (1) 「夫, 男」	peñlis (2) 「ナイフ」	arklỹs (3) 「馬」	dienà (4) 「日, 昼」	mokinė (3 <sup>a</sup> ) 「女生徒」
単主	výras	peñlis	arklỹs	dienà	mokinė
属	výro	peñlio	árklio	dienõs	mokinėš
与	výrui	peñliui	árkliui	diėnai	mókinėi
対	výrą	peñlį	árklij	diėną	mókinę
具	výru	peiliù	árkliu	dienà	mókinė
位	výre	peñlyje	arklyjė	dienojė	mokinėjė
呼	výre	peñli	arklỹ	diėna	mókinė
複主	výrai	peñliai	arkliaĩ	diėnos	mókinės
属	výrų	peñlių	arklių	dienų	mokinių
与	výrams	peñliams	arkliáms	dienóms	mokinėms
対	výrus	peiliūs	árklius	dienàs	mókinės
具	výrais	peñliais	arkliaĩs	dienomis	mokinėmis
位	výruose	peñliuose	arkliuose	dienosė	mokinėsė
呼	výrai	peñliai	arkliaĩ	diėnos	mókinės

	第3変化		第4変化	第5変化		
	pilis (4) 「城」	dantis (4) 「歯」	sūnūs (3) 「息子」	vanduō (3 <sup>a</sup> ) 「水」	sesuō (3 <sup>b</sup> ) 「姉妹」	duktė (3 <sup>b</sup> ) 「娘」
単主	pilis	dantis	sūnūs	vanduō	sesuō	duktė
属	piliės	dantiės	sūnaūs	vandeñs	seseřs	dukteřs
与	piliai	dañčiui	sūnui	vādeniui	sėseriai	dūkteriai
対	pilį	dañtį	sūnų	vādenį	sėserį	dūkterį
具	pilimi	dantimi	sūnumi	vādeniu	sėseria / seserimi	dūkteria / dukterimi
位	pilyjė	dantyjė	sūnujė	vandenyjė	seseryjė	dukteryjė
呼	piliė	dantiė	sūnaū	vandeniė	seseriė	dukteriė
複主	pilyys	dañtys	sūnūs	vādenys	sėserys	dūkterys
属	pilių	dantų	sūnų	vandenų	seserų	dukterų
与	pilims	dantims	sūnūms	vandenims	seserims	dukterims
対	pilis	dantis	sūnus	vādenis	sėseris	dūkteris
具	pilimis	dantimis	sūnumis	vandenimis	seserimis	dukterimis
位	pilyšė	dantysė	sūnuosė	vandenysė	seserysė	dukterysė
呼	pilyys	dañtys	sūnūs	vādenys	sėserys	dūkterys

**形容詞** — 形容詞は、男性形と女性形を区別する。形容詞は定語的・述語的用法いずれの場合も名詞の性・数・格に一致する。ただし、無人称（非人称）文に用いられる中性の残存は、主格形のみで不変化である。

例. Māno žmonà yrà gerà.

私の 妻は ～である 良い（女性単数主格）

「私の妻は良い（人だ）。」

Gėra.

良い（中性）

「(気分・調子などが) 良い(感じだ)。」

表 2. 形容詞の変化例

	第1変化		第2変化		第3変化	
	báltas (3) 「白い」		gražūs (4) 「美しい」		medinis (2) 「木の」	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
単主	báltas	baltà	gražūs	graži	medinis	medinė
属	bálto	baltōs	gražaūs	gražiōs	medinio	medinės
与	baltám	báltai	gražiam	grāžiai	mediniam	medinei
対	bálta	bálta	grāžų	grāžią	medinį	medinę
具	báltu	bálta	gražių	gražią	medinių	medinė
位	baltamė	baltoję	gražiamė	gražioję	mediniame	medinėje
呼	báltas	baltà	gražūs	graži	medini	medinė
複主	balti	baltos	grāžūs	grāžios	mediniai	medinės
属	baltų	baltų	gražių	gražių	medinių	medinių
与	baltiems	baltóms	gražiems	gražióms	mediniams	medinėms
対	báltus	báltas	gražiūs	gražias	medinius	medinės
具	baltais	baltomis	gražiais	gražiomis	mediniais	medinėmis

位	baltuosè	baltosè	gražiosè	gražiosè	mediniuose	medinėse
呼	balti	báltos	grāžūs	grāžios	mediniai	medinės

形容詞の語尾の形は名詞とかなり共通し、女性形は基本的に名詞の対応する語幹の格形と同形である。大きな違いは、名詞は複数のみ主格形＝呼格形であるのに対して、第1・第2変化の形容詞は単数・複数どちらも主格形＝呼格形である点である。

表3. 形容詞と名詞の変化例

	gėras vėras 「良い夫(男)」		gerà žmonà 「良い妻」	
	単	複	単	複
主	gėras vėras	gerì vėrai	gerà žmonà	gėros žmónos
属	gėro vėro	gerŭ vėrų	gerōs žmonōs	gerŭ žmonų
与	gerám vėrui	geriėms vėrams	gėrai žmónai	geróms žmonóms
対	gėrą vėrą	gerūs vėrus	gėrą žmóną	geràs žmónas
具	gerù vėru	geraiš vėrais	gerà žmóna	geromis žmonomis
位	geramè vėre	geruosè vėruose	gerojè žmonojè	gerosè žmonosè
呼	gėras vėre	gerì vėrai	gerà žmóna	gėros žmónos

リトアニア語には冠詞がないが、形容詞、形容詞的な代名詞、数詞、及び、分詞には、単純形に3人称代名詞の変化形を付加して作られる限定形がある。

例. juodàsis / juodóji 男性／女性単数主格・限定形「その黒い」

(<júodas / juodà 男性／女性単数主格「黒い」+3人称代名詞 jįs / jį)

表4. 形容詞の限定形の例

	gėras 「良い」非限定形		gėras 「良い」限定形	
	男	女	男	女
単主	gėras	gerà	geràsis	geróji
属	gėro	gerōs	gėrojo	gerōsios
与	gerám	gėrai	gerájam	gėrajai
対	gėrą	gėrą	gėrajį	gėrąją
具	gerù	gerà	gerúoju	gerája
位	geramè	gerojè	gerájame	gerōjoje
呼	gėras	gerà	geràsis	geróji
複主	gerì	gėros	geriėji	gėrosios
属	gerŭ	gerŭ	gerŭjų	gerŭjų
与	geriėms	geróms	geriėsiems	gerósioms
対	gerūs	geràs	gerúosius	gerąšias
具	geraiš	geromis	geraišiais	gerōsiomis
位	geruosè	gerosè	geruōsiuose	gerōsiose
呼	gerì	gėros	geriėji	gėrosios

動詞 — リトアニア語の動詞は、3つの人称(1・2・3人称)と2つの数(単数と複数)を区別する。ただし、3人称形は語幹形成母音のみによって構成される形であり、数の区別をしない。動詞の形式の基本となっているのは、現在語幹、過去語幹、不定形語幹の3つであり、慣例として辞書にはこの3つの形が示される。動詞の形態

論的カテゴリーには、人称と数の他に、さらに時制（テンス）と法（ムード）がある。基本的な時制は、現在、過去（単純過去あるいは一般過去）、習慣過去、未来である。これらの時制形は人称・数を区別し、主語と文法的に一致する。さらに、動詞の形態論的カテゴリーとしての法には、直説法その他、接続法（別の用語で条件法あるいは希求法）、及び、命令法がある。

表 5. 動詞の現在形の変化例

不定形			第 1 変化	第 2 変化	第 3 変化
			kalbėti 「話す」	turėti 「もつ」	skaityti 「読む」
単	1 人称	àš	kalbù	turiù	skaitaù
	2 人称	tù	kalbì	turì	skaitaĩ
	3 人称	jìs, jì	kaĩba	tùri	skaĩto
複	1 人称	mēs	kaĩbame	tùrime	skaĩtome
	2 人称	jūs	kaĩbate	tùrite	skaĩtote
	3 人称	jiẽ, jõs	kaĩba	tùri	skaĩto

リトアニア語には、再帰接辞 **-si/-s** をもつ派生的な再帰動詞が数多くある。再帰動詞は、darýti 「する、作る」 → darýtis 「なる、自分のために作る」のように、接頭辞をもたない動詞の場合は、再帰辞 **-s (-si)** を語末につけて形成される。その際、人称変化語尾の母音が以下のように一部変わるので注意する。

表 6. 再帰動詞の現在形の変化例

不定形			第 1 変化	第 2 変化	第 3 変化
			piĩktis 「自分に買う」	tikėtis 「期待する」	mókytis 「学ぶ」
単	1 人称	àš	perk <u>ú</u> osi	tiki <u>ú</u> osi	mókausi
	2 人称	tù	perk <u>ie</u> si	tiki <u>ie</u> si	mókaisi
	3 人称	jìs, jì	peĩkasi	tiki <u>s</u> i	mókosi
複	1 人称	mēs	peĩkam <u>ė</u> s	tiki <u>m</u> ė <u>s</u>	mókom <u>ė</u> s
	2 人称	jūs	peĩkat <u>ė</u> s	tiki <u>t</u> ė <u>s</u>	mókot <u>ė</u> s
	3 人称	jiẽ, jõs	peĩkasi	tiki <u>s</u> i	mókosi

なお、接頭辞付きの再帰動詞の場合、pasidarýti のように、再帰辞 **-si-** が接頭辞の直後に挿入される。否定の **ne-** をそえた場合も同様に、**-si-** が前に移動して nesidarýti のようになるので注意が必要である。

以下に、非再帰動詞・再帰動詞それぞれの変化語尾をまとめておく。表 5 が示すように、1 人称単数 **-u**、2 人称単数 **-i**、1 人称複数 **-me**、2 人称複数 **-te** という語尾は、現在、過去、未来に共通している。なお、未来形は不定形語幹に **-s-** を、習慣過去形は **-dav-** を添えて作られる。

表 7. 非再帰動詞の変化語尾

	現在形			過去形		未来形	習慣過去形	接続法現在形
	第 1 変化	第 2 変化	第 3 変化	第 1 変化	第 2 変化			
単 1	-u	-iu	-au	-au	-iau	-siu	-davau	-čiau
2	-i	-i	-ai	-ai	-ei	-si	-davai	-tum
3	-a	-i	-o	-o	-ė	-s	-davo	-tų
複 1	-ame	-ime	-ome	-ome	-ėme	-sime	-davome	-tume
2	-ate	-ite	-ote	-ote	-ėte	-site	-davote	-tumėte
3	-a	-i	-o	-o	-ė	-s	-davo	-tų

表 8. 再帰動詞の変化語尾

	現在形			過去形		未来形	習慣 過去形	接続法 現在形
	第 1 変化	第 2 変化	第 3 変化	第 1 変化	第 2 変化			
単 1	-uosi	-iuosi	-ausi	-ausi	-iausi	-siuosi	-davausi	-čiausi
2	-iesi	-iesi	-aisi	-aisi	-eisi	-siesi	-davaisi	-tumeisi
3	-asi	-isi	-osi	-osi	-ësi	-sis	-davosi	-tųsi
複 1	-amès	-imès	-omès	-omès	-ëmès	-simès	-davomès	-tumès
2	-atès	-itès	-otès	-otès	-ètès	-sitès	-davotès	-tumètès
3	-asi	-isi	-osi	-osi	-ësi	-sis	-davosi	-tųsi

表 9. 命令形の変化語尾

	命令形	
	非再帰動詞	再帰動詞
単 2	-k	-kis
複 2	-kite	-kitès
複 1	-kime	-kimès

分詞 — リトアニア語は分詞形が豊富であり、その数は 13 個に及ぶ。形の上で次の 3 種類に大きく分けられる。

①分詞（形容詞的分詞）：性・数・格を区別して変化。能動と受動を区別。

現在／過去／習慣過去／未来能動分詞，現在／過去／未来受動分詞，必要分詞

②半分詞：性・数を区別して変化（主格形のみ）。能動のみ。

③副分詞（副詞的分詞）：不変化。能動のみ。

現在／過去／習慣過去／未来副分詞

以下に、dirbti「働く」を例として、もとになる動詞形と分詞形の例を挙げる。

動詞	分詞	単数主格形（男性形/女性形）
3 人称現在形	→ 現在能動分詞	dirbantis (dirbąs) / dirbanti
3 人称過去形	→ 過去能動分詞	dirbęs / dirbusi
3 人称未来形	→ 未来能動分詞	dirbsiantis (dirbsiąs) / dirbsianti
3 人称習慣過去形	→ 習慣過去能動分詞	dirbdavęs / dirbdavusi
3 人称現在形	→ 現在受動分詞	dirbamas / dirbamà
不定形	→ 過去受動分詞	dirbtas / dirbtà
3 人称未来形	→ 未来受動分詞	dirbsimas / dirbsimà
不定形	→ 必要分詞	dirbtinas / dirbtinà
不定形	→ 半分詞	dirbdamas / dirbdamà
不変化		
3 人称現在形	→ 現在副分詞	dirbant
3 人称過去形	→ 過去副分詞	dirbus
3 人称未来形	→ 未来副分詞	dirbsiant
3 人称習慣過去形	→ 習慣過去副分詞	dirbdavus

リトアニア語には、英語の be 動詞に相当する存在・連辞動詞 būti と形容詞的分詞から成る、分析的な時制形がある。これらの分析的形式においては、時制を表示する動詞 būti が主語の人称・数に一致するのに対して、分詞は主語の性・数に一致する。完了形は、動詞 būti の現在形＋過去能動分詞から成り、結果や経験を表す。būti

の現在形は現れないことが多く、とくに3人称でその傾向は顕著である。

表 10. 現在完了形の変化例

			búti の現在形	+	dirbti 「働く」 の過去能動分詞
単	1 人称	àš	esù	+	dirbęs / dirbusi (男性 / 女性単数主格形)
	2 人称	tù	esi		
	3 人称	jìs, jì	yrà		
複	1 人称	mēs	ėsame	+	dirbė / dirbusios (男性 / 女性複数主格形)
	2 人称	jūs	ėsate		
	3 人称	jiė, jōs	yrà		

例. Jis (yrà) dirbęs Japònijoje.

彼は 働いたことがある (現在完了) 日本で

「彼は日本で働いたことがある。」

リトアニア語では、受動文もまた、存在・連辞動詞 búti と現在／過去受動分詞から成る分析的形式によって作られる。他動詞から作られる基本的な受動文では、動作の対象が文の主語になり、主格で表される。この場合、動詞 búti は主語の人称と数に一致し、受動分詞は主語の性と数に一致する。受動文では動作者が属格によって明示され得る。

例. Nāmas dabā (yrà) brólio stātomas.

家は 現在 兄によって (属格) 建てられている (現在受動分詞)

「家は現在建てられているところ (建設中) である。」

Nāmas jau (yrà) brólio pastatytas.

家は すでに 兄によって (属格) 建てられている (過去受動分詞)

「家はすでに建てられている (建ててある・完成されている)。」

また、リトアニア語の分詞には、文中で第2の述語を表す状況語的用法があり、時間、原因、条件、譲歩など、文脈によって多様な意味を表す。とくに、半分詞と副分詞はもっぱらこの用法をもつ。半分詞は文の述語と同一の主語 (主格) をもち、性・数においても主語と一致する。

例. Eīdamas namō, sūnūs daināvo.

「家へ帰りながら (半分詞), 息子は歌っていた。」

副分詞は、文の述語と同一の主語 (主格) をもたない場合に用いられ、意味上の主語は与格で表される。

例. Mótinai miėgant, sūnūs skaītė knygą.

「母親が (与格) 眠っているとき (現在副分詞), 息子は本を読んでいた。」

Mótinai parėjus namō, sūnūs apsidžiaugė.

「母親が (与格) 家に帰ってくると (過去副分詞), 息子は喜んだ。」

文における格表示 — リトアニア語は、基本的に、自動詞文の主語＝他動詞文の主語＝主格、他動詞文の直接目的語＝対格を取る、いわゆる主格対格型の言語である。

例. Àš dirbu.

私は (主格) 働く

「私は働いている。」

Àš turiu pasą.

私は (主格) もっている パスポートを (対格)

「私はパスポートをもっている。」

否定文の格表示はこれと異なり、否定存在文の主語＝否定他動詞文の直接目的語＝属格である (いわゆる否定

の属格)。

例. Nėrà laĩko.

ない 時間が (属格)

Àš neturiù pãso.

私は (主格) もっていない パスポートを (属格)

「私はパスポートをもっていない。」

**基本語順** — リトアニア語において、優勢な語順は **SVO** である。ただし、形態変化の豊富さと相関して、語順は比較的自由であり、文脈によって **VS**, **OV** など多様な語順が可能である。間接目的語は直接目的語の前に置かれることが多い。

例. Jõnas rãšo draũgei láiška.

S V IO DO

「ヨナスは女友だちに手紙を書いている。」

目的語が代名詞の場合は、次の例のように、**OV** の語順の方がより一般的である。

例. Àš jái rašaũ láiška.

S IO V DO

「私は彼女に手紙を書いている。」

また、限定語が被限定語に先行する語順が優勢である。

代名詞／数詞／形容詞／属格一名詞

例. tiẽ dù auksiniai žiedai 「それらの2つの金の指輪」

名詞－具格／前置格／関係節

studeñtai iš Japõnijos 「日本からの学生たち」

副詞－形容詞

labai įdomi knyga 「とても面白い本」

副詞－動詞

gerai šoka iš dainuoja 「上手に踊り歌う」

**人称文と無人称文** — リトアニア語では、人称文の述語動詞は人称・数において主語と一致する。

例. Àš kalbù lietùviškai.

私は 話す (1人称単数) リトアニア語で

「私はリトアニア語を話す。」

Jūs rãšote láiška.

あなたは 書く (2人称複数) 手紙を

「あなたは手紙を書いている。」

一方、文法的な主語がない無人称文では、意味上の主語は与格で表示される。

例. Mán gẽra.

私は (与格) 良い (中性)

「私は (気分・調子などが) 良い (感じだ)。」

Mán skaũda gálva.

私は (与格) 痛む (3人称現在) 頭が (対格)

「私は頭が痛い。」